

令和7年度 山田中学校 学校評価

【学校教育目標】	【本年度の重点目標】
確かな学力と豊かな心を持ち、地域を愛するたくましい生徒の育成 ～凡事徹底～	○意欲をもち、主体的に学びに向かう生徒の育成 ○自他を大切にし、信頼される生徒の育成(学ぶ意欲の向上)(不登校10人以下)(対応クレーム0) ※積極的称賛と価値づけ活動

自己評価は4段階で評価しています。(4: そう思う 3: どちらかといえばそう思う 2: どちらかというと思わない 1: そう思わない) ※数値(上段:12月 下段:7月)

領域	項目	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策	
学習指導	授業内容の改善	日常的に学力向上を意識しながら教科の授業に取り組んでいるか 《結果》 日々の授業が学力向上に直結しているという自覚を持ち、知識の伝達に留まらない、目的意識を持った授業を展開することができた。	3.8 ↑ 3.6	個々の教員が、学力向上を意識しながら、具体的な行動及び組織的な方策をどのように行うかが重要だと思います。	○定期考査や標準学力調査の結果を分析し、自校の弱点分野を特定した上で、教科横断的に重点指導項目を設定する。 ○生徒が「10分間で何を達成するか」という目標意識をより明確に持てるよう、課題提示の工夫や、教員による機間指導(見守り・声掛け)のタイミングを徹底し、全生徒が最後まで緊張感を持って取り組める環境づくりを推進する。 ○自分の考えをまとめるのに時間を要する生徒への、スモールステップによる支援(ヒントカードの提示など)のさらなる充実を図る。 ○単なる「めあて」の提示ではなく、子どもたちが自ら思考したくなるような「学習課題(問い)」の設定を行う。 ○授業の終わりに「何ができるようになったか」を確認する記述時間の確保や、小テスト等の結果を即座に次の授業に反映させるフィードバックのサイクルを行う。
		モジュール学習で10分間生徒がしっかりと取り組めるように指導しているか 《結果》 モジュール学習において、10分間という限られた時間を有効に活用し、基礎・基本の反復練習に取り組むことができた。	3.2 ↑ 3.1	モジュール学習で、まずは基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させることが必要だと思います。	
		授業で理由や根拠をもとに自分の考えを表現する(かく)活動があるか 《結果》 (かく)活動としては、定着しているが、個々の記述の質や、苦手な生徒への具体的な支援が必要だった。	3.0 ↑ 2.6	かく活動を振り返り活動等を通してかく場面を取り入れたことは効果的だとも思います。苦手な生徒には、具体的な支援が必要だと思います。	
学習指導	家庭学習の習慣化	授業では一単位時間の授業の流れ(「めあて」「見通し」「思考活動」「まとめ」「振り返り」を行っているか 《結果》 年度初めの職員研修において、授業のグランドデザインを学校全体で共通確認することで、どの教科においても一単位時間の流れに沿って授業を進めることができた。	2.9 ↑ 3.2	生徒一人一人が「わかった」と感じるような授業ができるように、振り返りの時間の充実が必要だと思います。	
		各教科で課題(特に週末)を与えることができたか 《結果》 平日の家庭学習は一定数定着しているものの、週末における学習時間の確保が教科によって偏りがあり、生徒が「何をすべきか」迷う場面が見られた。	2.4 ↑ 2.2	週末課題は出している教科とそうでない教科があります。生徒が積極的に週末課題に取り組める工夫が大切だと思います。	
学習指導	家庭学習の習慣化	家庭学習の方法や取り組み方、家庭学習に向かう姿勢などを指導したか 《結果》 指導内容は理解しているものの、実際の家庭での実行に移せている生徒が一部に留まっていた。	3.1 ↑ 2.8	生徒には、総合的な学習の時間を使って「生き方学習」として家庭学習の意義について理解させ、また、保護者へ家庭学習に対して協力体制の啓発も必要だと感じます。	
		総合所見	本年度は、授業のグランドデザインの中に「自己選択・自己決定させる場面」を設定し、知識の伝達に留まらない、課題意識を持った主体的な授業展開に重点をおいた。特に、「自分で選び、自分で決定した」という課程は、生徒の主体性を強く刺激し、自分の興味関心に合わせて選択できるため、学習そのものを楽しむ姿勢を見ることができた。しかし、授業の場面設定において、選ぶことが自体が目的になってしまい、質の伴わない選択や教師主導の表面的な自由選択等の課題もあげられている。今後は、目的の明確化「なぜ今、自分で選ぶ必要があるのか」という学習の目的(ゴール)を共有する、質の高い選択肢の提示「それぞれの選択肢のメリットや難易度を可視化」する、降り返りの充実「授業の終わりに「その選択は適切だったか？」を振り返り」を行う等の授業改善を図る。		

生徒指導	<p>落ち着いた学校づくり</p> <p>生徒がチャイム1分前着席を守る指導を行っているか</p> <p>〈結果〉 学級担任と教科担任の連携によって、学期を通じた継続的な声掛けができ、生徒の間に「時間を意識した行動」が定着しつつある。</p>	3.6 ↑ 3.6	小中一貫教育推進会議の中で、学習規律のスタンダードを共有し、9年間を通じた指導の徹底(時間を大切にす る等)が大切だと感じます。	○休み時間の過ごし方などの「節目」における意識に個人差が残っており、今後は「指導」から「セルフマネジメント」へ意識を変える取組を行う。
	<p>挨拶の指導を行っているか</p> <p>〈結果〉 校内における挨拶の習慣化は着実に進んでいる。教職員による率先した声掛けや、児童会(生徒会)による「挨拶運動」により、学校全体に活気ある雰囲気を作ることができた。</p>	3.6 ↑ 3.6	山田中校区の児童生徒は、普段から誰に対しても気持ちが良い挨拶が出来ていると思います。先生方の指導の賜です。	○学校内だけでなく、放課後や休日も地域の方に対して自然に挨拶ができるよう、保護者への啓発をさらに強化していく。
生徒指導	<p>積極的な生徒指導</p> <p>いじめについて未然防止、早期対応を行っているか</p> <p>〈結果〉 定期的なアンケートや教育相談の実施により、生徒の小さな変化を察知しようとする教職員の意識が高く、事案発生時の初期対応についても、学年・生徒指導委員会・管理職の連携が迅速に行うことができた。</p>	3.6 ↑ 3.5	いじめについては、教職員のいじめに対する認識を高めることができている。今後は、「SNS上のトラブル」「未然防止に向けた取組」「早期発見に向けた取組」についてさらに取組を進める必要があります。	○SNS上のトラブルなど、学校の目が届きにくい場面での事案が増加傾向にあり、情報モラル教育のさらなる拡充を行う。 ○発生後の事後報告だけでなく、未然防止の段階で「家庭での様子の変化」をより迅速に共有し合えるパイプ作りを行う。
	<p>生徒の姿を具体的にほめているか</p> <p>〈結果〉 今年度の研究主題から、教職員一人ひとりが、生徒の過程(プロセス)や小さな変化に目を向け、具体的な言葉で価値づけを行うことができた。</p>	3.6 ↑ 3.4	教師が学校生活の中で、意識的に褒める場面を作り、生徒に自信とやる気を育ててほしいと思います。	○学校で見た生徒の姿を、電話や家庭訪問等を通して、積極的に保護者へ伝え、学校と家庭が一体となって生徒を育む土壌を強化する。
	<p>総合見</p> <p>本年度は、学力向上検証委員会や生徒指導委員会を中心に、学力向上を目的とし、落ち着いて授業を受けるための「学習規律のスタンダード」の徹底を図っていった。また、学校行事や生徒会活動、部活動を通して、挨拶の意味や大切さについての指導を行っていった。それから、いじめの未然防止として、各種アンケートや教育相談を通して生徒の実態把握をする所とともに、保護者と連携したり、情報モラル教育を中心に外部講師を招聘したりするなどをし、規範意識の向上に努めた。来年度は、様々な研修を行うことで、いじめの未然防止と事後見の対応について全職員で共通理解を図るとともに、様々な外部機関と連携し、積極的な生徒指導に努めていく。</p>			
職員研修	<p>校内研修の充実</p> <p>校内研修で学んだことを日常の教育実践に生かしているか</p> <p>〈結果〉 研修における学びの実践は見られるものの、研修内容の『消化』に留まっている側面も否めない。</p>	3.0 ↑ 3.1	教師が主体的に研修を計画し、取組を進めていると思います。今後は、研修で学んだ実践が、子どもの変容や教師の変容にどのように繋がったか分析が必要だと思います。	○各教員が個別に行っている優れた実践を、学年を超えて共有する仕組み(事例報告会や共有掲示板の活用など)を強化する。
	<p>全教師が年1回の授業研究に取り組めたか。</p> <p>〈結果〉 OJTの一環として、若手教員が中堅・ベテラン教員の授業を参観することができ、授業構成スキルの向上に繋がった。</p>	3.6 ↑ 3.3	OJTの一環として、授業を公開し合い、交流を深めることができていると思います。授業参観週間を地域や保護者の方に公開することも期待しています。	○実践の振り返りや教材研究の時間を確保するため、会議の精選や校務の効率化を推進する。 ○今後は、研修で学んだ実践が子どもの変容にどう繋がったかを分析する視点を強化する。
職員研修	<p>校外研修の参加</p> <p>センター研等へ積極的に参加することができたか</p> <p>〈結果〉 研修へ積極的に参加はしたが、還元の手が少なかった。</p>	3.1 ↑ 3.1	校外研修で学んだことを校内の研修で全体に伝えることで、さらに自分の学びをアップデートすることができると思います。	○研修で学んだ内容を学年全体や学校全体へより効果的に還元する機会を増やし、組織的な貢献度を高める。
	<p>総合見</p> <p>本年度は、人権教育についての研修や学力向上に向けた研修等を中心に計画的に実施することができた。その中で、嘉麻市の教育課題である学力向上と不登校の減少に向けた研修を計画し、各学年の実態を踏まえながら取組を実施してきた。また、教員の授業力向上のために、学期に1回の教員による授業参観週間を設定し、授業参観と授業後の協議会を行った。授業後の協議会では、授業のグランドデザインを中心に教科の垣根を超えて協議することができた。来年度は、今年度と同様に学力向上のために、授業の中で自己決定・自己選択の場面を設定し、生徒の自己肯定感を高めていきたい。また、校外研修については、研修内容を全教員に還元する場や機会の設定を研修部と連携しながら作っていく。</p>			